

ゆかりの 寺シリーズ その11

源義経 ゆかりの寺

「満福寺 (真言宗大覚寺派)」



満福寺本堂

満福寺は、744年(天平16年)、行基による開基。源義経が兄源頼朝の許しを得るために「腰越状」を書いた寺として知られる。

1185年(元暦2年)、壇ノ浦で平家を滅ぼした義経は、平家の総大将平宗盛を護送し、鎌倉に凱旋しようとしたが、兄頼朝は鎌倉に入ることを許さなかった。

義経は腰越の満福寺に留まり、大江広元を通じて頼朝の許しを得ようとするが、許されることはなく再び京へ戻ることになる。

その後、頼朝との仲はさらに悪化し、ついには義経捕縛命令が出される。

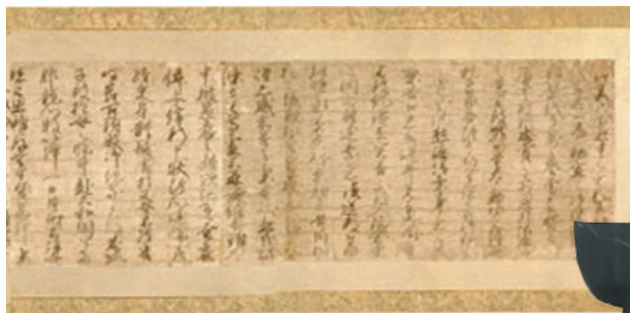
義経は逃亡の果てに奥州平泉の藤原秀衡を頼るが、秀衡亡き後、頼朝を恐れた秀衡の子泰衡に攻められ自刃した。

満福寺には、弁慶の筆跡とされる「腰越状」の下書きと伝えられるものがある。弁慶が書いた書状に、義経自らが筆をとって「敵のために命を亡はんことを顧みず」という文字を付け加えたため、下書きとして残されたものだといわれている。

満福寺は、聖武天皇の命によって、疫病追放を命じられた行基が、草庵を結んだのがその始まりだと伝えられている。しかし、この寺を有名にしているのは、鎌倉に入ることができない義経がしばらく滞在したということ。そういった意味から「弁慶寺」とも呼ばれていた。



弁慶の腰掛石



「腰越状」の下書き

本堂内の換気を徹底し、参拝者にはマスク着用及びアルコール消毒液の使用をお願い致します。



「孟蘭盆会法要」 (柏原説教堂)  
八月 十九日(金) 朝席・昼席  
講師 今津隆文師  
(広島市安佐南区西原明福寺)

「宗祖聖人月忌」  
門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)  
八月 十六日(火) 午後一時半  
\*毎月十六日に本堂において勤めております。

「孟蘭盆会納骨法要」 (善教寺本堂)  
八月 十日(水)  
午前九時〜 読経(正信偈)  
午前九時半〜 朝席法話  
午前十一時半 法要終了  
講師 藤哲哉師  
(広島市中区中島町善福寺)

今後の法要スケジュール